

# 小中が連携した組織的な授業改善の取組 ～ 朝地小・中 ～

平成30年11月1日(木)第2回定期学校訪問にて

朝地小・中学校は、平成25年度から「連携型小・中一貫教育校」の市の指定を受け、更には、平成29・30年度国立教育政策研究所教育課程研究センターの指定校事業として、「校種間連携」の研究にも取り組んできました。

体育祭や文化祭等の合同開催のみならず、小中相互の乗り入れ授業を積極的に行うとともに、「伝え合う力」を核とした言語活動を位置づけた授業づくりを合同の研究テーマとし、9年間の連続した「学び」の質の向上に努めています。

全ての授業で伝え合う場（考えを練り合う場）が設定され、ホワイトボード等の思考ツールも効果的に活用されていました。

## 自己決定の場



ワークシートを使って自己決定



ホワイトボードを使って自己決定

## ペア・グループで 練り合う場



ホワイトボードを使って練り合う



ホワイトボードを使って練り合う

## 全体に伝える場



ICTを使って説明



ICTを使って発表

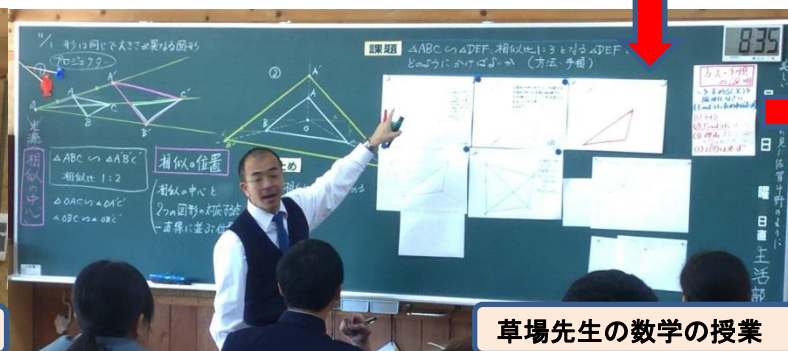


ホワイトボードを使って発表

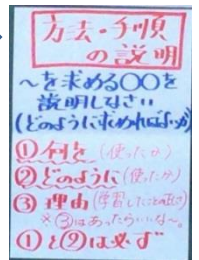
## 児童・生徒による言語活動を構造化した板書



鶴田先生の算数の授業



草場先生の数学の授業



どちらの授業も、児童生徒の考えを ①個人で考える ②ペア・グループで練り合う といった活動がしっかりと位置づけられており、児童生徒が主体的・対話的に学習する姿が見られました。算数・数学では小中相互の乗り入れ授業が行われており、数学的に表現する言語活動が、小中共通の視点をもって取り入れられている点が素晴らしいと感じました。

数学の授業では生徒に説明させる際に、説明の手順を意識させている。

※説明の基本形を参考に！